

## 第3学年 国語科 学習指導案

日 時 平成20年11月20日(木) 5校時  
場 所 3年2組教室  
生 徒 男16名、女15名、計31名  
授 業 者 教諭 熊谷ゆう子

1 教材名 説得力のある文章を書こう—意見を主張する—(『国語3』光村図書)

2 教材について

(1) 系統性

本教材は、意見文を書く学習として2学年で扱った、根拠を明確にして意見を述べる教材(教材名「根拠を明らかにして書こう—意見を伝える—」)をさらに発展させ、相手を説得することを視野に入れ、「根拠の信憑性」や「説得力のある構成」などを吟味し、自分の論を補強することを学ぶ、応用的な教材として位置づけられている。

(2) 教材について

先の項目で述べたように、本教材は主に①説得力を支える「根拠の信憑性」をどのように高めていくか、また、②「説得力のある構成」とはどのようなものか、の2点について学習する。①については、ただ自分の主張に合致するデータを探し出すだけでなく、そのデータの信憑性を吟味することが求められる。それはいつ、だれが、どのような調査をもとに作成されたものなのか、また、作成者は情報源としてどの程度信頼に足るのか。簡単にインターネットで検索できる時代だからこそ、この点をしっかり吟味させる姿勢を身につけさせたい。②については、文章を構成する主張と根拠、それをつなぐ理由づけなどの役割を理解させるとともに、尾括弧、頭括弧、双括弧の特徴を知り、場面に応じて効果的な構成で意見文を書く力を身につけさせたい。

(3) 生徒の実態

古文の暗唱や言語事項のように、覚える内容が明確な学習内容については意欲的に学習し、暗記することを得意とするが、自分の意見を述べるような学習ではうまく言葉にできない生徒が多い。今年度実施した本学級のNRT検査の結果は、偏差値平均52.0ポイントで、全国平均を上回る定着を示しているが、領域ごとに見ると、「書くこと」の正答率が96ポイントで、全国の正答率を下回っている。さらに、設問の内容で見ていくと、「構成や論理の展開を工夫して書く」問題の正答率が91ポイントと最も低くなっている。本年度実施の全国学力・学習定着度状況調査でも同じ傾向が認められる。生徒が夏休みの課題として書いてきた意見文を分析したところ、以下のような問題点が浮かび上がった。

①独自の主張がない。

扱った題材の中で一番多かったのは環境問題についてであったが、内容は、テレビで聞きかじったことの羅列が多い。よって根拠として取り上げている情報の精度が低い。最終的な主張は、「エコバックを使おう」などで終わるタイプ。さしあたって主張したいことが見つからないため、とりあえず書いた意見文の感が強い。

②主張が最後まで貫かれず、途中で変わってしまう。

構成を考えず、とりあえず書き出してしまった結果と思われる。言葉の大切さについて述べるという導入から、本文のエピソードを挟んで結論は仲間の大切さにすり替わってしまうというタイプ。

③主張だけを繰り返し書いてしまう。

書く前の準備が不十分で、主張を支える根拠となるエピソードやデータが乏しいため、主張したいことを、表現を変えて繰り返し書くことに終始してしまうタイプ。

これまで説明的文章を読む学習では、筆者が読者を説得するためにどのような構成で書いているか、どのような根拠を挙げているかを考えさせ、教科書に線を引かせる活動を繰り返し行ってきており、読み取る能力はそれなりに身に付いてきているが、実際に自分が身近なことを題材にしてそのような文章を書くときには、その学習が反映されていないのが現状である。

#### (4) 指導にあたって

先の項目で示した問題点を解消するために、本教材の指導にあたって以下のような具体的な方策を考えた。

##### ①「独自の主張がない。」について

最終的に全員に書かせる意見文のテーマを「後輩たちへの提言」とし、来月の生徒総会に、実際に提出するという見通しを持たせることによって、身近な生活から主張すべきことを見つけ出させる。

##### ②「主張が最後まで貫かれず、途中で変わってしまう。」について

説得力のある構成を身近な例を使った演習問題で確認し、理解させた後、意見文を書く前に構成案を立てさせる。

##### ③「主張だけを繰り返し書いてしまう。」について

説得力を高めるためにどのような根拠を挙げなければならないかを演習問題で確認し、意見を書く前に用意させる。

一口に説得力のある文章と言っても、それには多くの要素が含まれる。豊かな語彙や絶妙な比喩が時として人の心を動かすこともある。しかし、今回は、生徒の実態を鑑み、文章の構成と根拠の明確さに焦点を絞り指導したいと考える。言葉の曖昧さをできるだけはぶき、シンプルかつ機能的に、自分の言いたいことを説得力あるように述べるにはどう書けばよいかを、しっかりと身につけさせたい。そして、論理的な文章を書くことが、実生活でも大いに役立つことを体感させたい。

#### (5) 本校の研究との関連

本教材における基礎・基本は、「根拠を精選すること」と「説得力のある文章構成を工夫すること」(B-1(1)-エ)とする。同じく活用とは、その基礎・基本を使って、実際の生活に生かせる意見文を書き、広く後輩に読ませる学習活動を指す。研究仮説に当てはめると、本教材では、本校の研究仮説の中の学習過程の「学習意欲の5つの視点」のうち特に「①興味・関心・意欲」「②目的意識」「④所属感・貢献感」について工夫することによって、基礎・基本の定着と活用が図られ、自ら意欲的に意見文を書こうとする生徒が育つであろうと考える。

##### ①の具体的方策

生活に密着した題材を「根拠の精選」と「文章の構成」を学習する演習問題に使用することによって、課題を追求することに有用感を感じさせ、生徒の興味・関心・意欲を喚起する。

##### ②の具体的方策

後輩に読ませる意見文を書くという目標を最初に提示することによって、目的意識をもって学習に取り組ませる。

##### ④の具体的方策

書いたものをお互いに出し合い、練り合う場面を意図的に設定し、自他の意見によって文章の説得力がより深まることを体験させ、所属感・貢献感を持たせる。

### 3 単元の目標

#### (1) 指導目標

自分の意見が相手に効果的に伝わるように、根拠を明らかにし、論理の展開を工夫して書く力を身につけさせる。

#### (2) 単元の評価規準

<関心・意欲・態度>主張と根拠の関係や構成に注目しながら例文を読もうとしている。

<書く>根拠の信憑性を吟味し、構成を考え、より説得力を持たせようとしている。

<書く>自分で見直したり、友人の意見を取り入れたりしながら、文章を修正し高めようとしている。

<言語>段落相互の関係や接続詞の使い方、文末表現に留意して文章を組み立てている。

4 単元の指導計画と具体的評価規準（6時間扱い）

時	学習活動	評価規準		
		関心・意欲・態度	書くこと	言語
1	①説得力のある文章とは何か考える。 ②学習の見通しを立てる。	・説得力がある文章について、積極的に自分の意見を述べている。		
2 本時	①主張と根拠の関係を考える。 ②客観的な根拠を示すことにより、主張の説得力が増すことを確かめる。	・主張と根拠の関係について、気づいたことを積極的に書き込み、発言している。	・客観的な根拠を示すことにより、主張の説得力が増すことに気付き自分の意見文に生かせる。	
3	①説得力のある主張を書くための効果的な構成を考える。		・主張する内容によって、統括式、双括式、尾括式を使い分けて書くことによって、説得力が増すことに気付き、自分の意見文に生かせる。	
4	①後輩に読ませる意見文の構想を立てる。 ②互いの意見を交換し構想を練る。	・進んで友達と意見を交わしている。	・書こうとするテーマについての的確な根拠を挙げ、構成を工夫して書いている。	
5	①構想をもとに、後輩に読ませる意見文を書く。	・意欲的に意見文を書いている。	・意見文を書くには、「主張の述べ方」「根拠の提示」「客観的な視点」「構成」が重要であることを理解し、文章に説得力をもたせて書いている。	・自分の主張を明確に伝えるために、段落の役割や接続の関係、文末表現に注意している。
6	①互いの意見文を読み合い、気づいたことを伝え合う。	・友達との意見交換でも積極的に発言し、自他の意見文をよりよいものにしようとしている。		

5 本時について

(1) 本時の目標

主張と根拠の関係を考えさせ、説得力を高める根拠の挙げ方に気付かせる。

(2) 学習内容と具体的な判断規準・支援

学習内容	評価規準	具体の評価		規準の内容を実現していない生徒への対応・手立て
		十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・主張と根拠の関係を考える。</li> <li>・客観的な根拠を示すことにより、主張の説得力が増すことを確かめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習を参考にし、根拠の不足を書き出している。</li> <li>・グループの話し合いに参加している。</li> <li>・客観的な根拠ほど説得力があることに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に根拠の不足を書き出している。</li> <li>・グループの話し合いに積極的に参加している</li> <li>・客観的な根拠ほど説得力があることに気付き指摘できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の意見を聞きながら根拠の不足を書き出している。</li> <li>・グループの話し合いに耳を傾け人の意見を参考にしてしている。</li> <li>・客観的な根拠ほど説得力があることを周囲の意見を参考にして気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別学習の段階で、十分課題が理解できるように机間巡視で指導する。</li> </ul>

(3) 本時の展開

	学習過程・5つの視点	学習活動及び学習内容	○ 具体の評価規準 * 指導・手立て
導入 5分	1 前時の内容の想起	1 説得力のある文章を書くには、「主張」と「根拠」が大切だということを確認する。	* 前時学習プリントを参照。
	2 学習課題の把握 【②目的意識】	2 実際に具体的な例題を使って「根拠」の挙げ方を学ぶことを確認する。	
<b>課題 説得力のある根拠の書き方を考えよう。</b>			
展開 35分	3 課題の追求 【①興味・関心・意欲】 【④所属感・貢献感】	3 演習問題で「根拠の不足」について考える。 ・個人で学習プリントに根拠の不足を書き出す。 ・グループで話し合い、全ての演習問題について根拠の不足を考え発表する。 ・それぞれのグループが挙げた根拠の不足は何を付け加えればいいのか考える。 ・説得力のある根拠には客観的な視点が必要であることを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習を参考にして積極的に根拠の不足を書き出している。</li> <li>* 学習プリント</li> <li>○ グループの話し合いに積極的に参加している。</li> <li>* 観察</li> <li>○ 客観的な根拠ほど説得力があることに気付いている。</li> <li>* 観察</li> </ul>
	終末 10分	4 自己評価	4 授業でわかったこと、わからなかったことを記述する。